

新たな制度、そして、多種多様な形態の中で、「どの園を選ぶのか？」お役立てください。

「園ごとの違いと上手な園の選び方」



平成 27 年度より施行された「新制度」に於いては、多種多様な施設がひとつの制度に統合される流れの中で、形式や背景の違い、また、内容の違いにより、幼稚園と同じように保育所も特定保育料など実費を徴収する事になりました。故に、もはや認定こども園が保育所かの違いではなく、園ごとの違いや特徴とされるのが正確かと受け止められます。

「私は質よりコストを重視する」「いや私はコストをかけても、これが欲しい」など、どんな物を購入する時もそういった価値観が存在します。

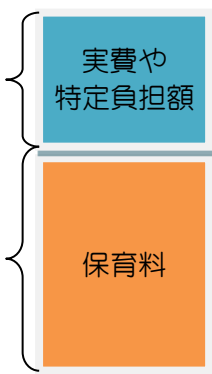
それと同じように、生活感や教育観などにも、家庭により様々な価値観があります。

通常の園運営に於いては、認可基準を満たしている事が必須の基準となり、全園が一定の法則に応じた運営費で運営されています。つまり、定員が同じである同一地域の園は、みな公平に定められた公定価格による施設給付費にて運営されています。

しかしながら、過去からの流れ、内容、立地や償却資産の量など含め、園の理念や方針や価値観により、確保したい環境や実践などにも様々な違いがあり、そこが、多彩な施設構成に応じた特定保育料の違いとなっています。

施設の状況ごとに定められた、特定保育料。

幼稚園・保育所・認定こども園などに在園する、1号児・2号児・3号児ごとに定められた、自治体ごと共通の保育料。



認可基準を超える施設規模や実践内容により異なります。

例えば、人員配置の上乗せ、資格保有者の割合、駐車場やプールなどの有無や設置維持コスト、体育・リトミック・英語など正課指導の内容や頻度、建物・建材の質や駐車場の有無、借地か所有か？食育活動の頻度や内容など違いを生み出す背景は多岐に渡ります。

認可基準に必要な教育・保育の提供に必要な平均的な運営コストにより設定されています。



「応能負担」と「応益負担」

現在、保育園や幼稚園、認定こども園などは、世帯所得に対する負担額というように、「応能負担」での保育料の決まりの仕組みとなっています。そこに、環境や内容などに応じた、ユーザーが求め、各々の園により得られる内容による価格、いわゆる「応益負担」が組み合わさっている仕組みです。

ですので、園選びをされる際には、この両方を勘案した園選びをしなければなりません。

幼稚園や認定こども園は、各園ごとに保護者負担の違いがあり、その背景に、各園の環境や教育・保育内容の違いがありますが、これまでの保育園は、いわゆる「応能負担」で一律とされ、その中で、「通いやすい園」「設備が整っている園」「スタッフの質」などにより園選びをし、その入所順位は指数の高い家庭や所得により振り分けられるため、希望する園への入所には若干の不公平感を感じる家庭も発生していました。つまり、同じ負担であっても、得られる環境や内容が異なっていたわけです。

しかしながら、世の中には多様なニーズがあり、中には「もう少し教育費に負担をしても、習い事をさせたい」「食幾日からを入れてくれる園を選びたい」などのニーズは存在し、それらは否定できるものでもありませんでした。逆に、「施設設備や環境よりも通いやすい園」の方が、家庭の負担も減り、選択肢としての優先となる場合もあるでしょう。

ですので、地域には、この「応能負担」上でのニーズ確保と「応益負担」上でのニーズ確保、どちらも満たすことの出来る、様々な特色を持った園の配置が好ましい環境といえます。

ご家庭のニーズも様々。園も様々です。

さて。前記のように、園の運営は、おおよその定員に比例した公平な仕組が前提となっています。

冷暖房や床暖房を完備し、正課指導の充実、駐車場を借地にて用意し、人員配置も手厚く考える A 園があったとします。また逆に、そういった認可上必要な環境以上に予算をかけることは運営的にという負担になるため、認可基準で運営しようとする B 園もあったとします。しかしながら、いわゆる運営費という「収入」が同一であると、何が起こるかと言いますと、光熱費や教材、借地料、人件費などが膨らむ A 園の運営は厳しくなり、B 園の方が健全経営が出来ます。また、ご家庭側も、内容や環境が異なるのに同一負担という不公平が生じることとなります。

ならば、どの園も、永続的な運営を守るため、必須でないものは削除し、コストを抑えるため、人員もギリギリ、駐車場もなし、園庭も必要以上は維持コストがかかるため縮小、という方向に向かいます。「預けられるのであればよい」ことだけを目的とし、利用者側も、それだけを求めるのであればです。

これは、施設の特徴や、利用者側のニーズも多様であり、施設ごとの理念も違うとしても、利用者全員の公平を維持するために、このような「応能負担」の仕組みになったことも理解して頂けるでしょう。



正課指導あり。
遊具は少ない。
駐車場なし。
人員配置ギリギリ。

たとえば、同じ負担額
だとしても、内容に違
いがあるのね。



正課指導なし。
遊具は豊富。
駐車場 10 台。
人員配置は最低基準。

片や駅近くで土地代
が高く、片や駅から離
れていて、借地代が安
いなんて見えないコス
トの違いもあるのよ。



どこかにコストをかければ、削らなければ
ならない部分が出てきます。
また、事業者の運営手腕にも左右されます。

しかし、ご家庭（いわゆるユーザー）によっては、平均的な認可基準では物足りない家庭もあります。「ウチは車登園をしたいので駐車場があったほうが安心だし、教育カリキュラムも充実していたほうがいいし、園庭は広く遊具も豊富なほうがいい」という場合などです。

半面、「そこまで必要と感じないし、負担は少ないほうを優先したい」、「他に家計をかけたい物がある」というお考えも存在します。

そこに、「求めるものに合った買い物」である「応益負担」での選択肢が生まれます。

「正課指導も園庭も遊具もこんなに必要ないから、保育料を下げたい」というご家庭と、「少し負担をしてでもいいから、それらはあったほうが良い」と思うご家庭が同一の園に混在するため、どちらの意見を汲み取った場合においても、すべてのニーズに沿うことはできません。

これからは、様々な価値観に応じた多様なニーズに応えられる「応益負担」を組み合わせた施設設備の多様化が、地域の多様なニーズの満足に繋がっていくのです。

費用が高いから、設備が整っているから、それが教育保育の質や、良い園だとは限りません!

その園の狙いが、ご家庭の価値観や方針、子どもの特性などに見合っているか否かが、一番大切なことなのです。



幼?保?認こ?そしてどの園?「園えらび実例」

	花保育園	菊保育園	杉こども園	山こども園	海こども園
保育料	同じ				
特定保育料	なし	なし	5,000 円	5,000 円	10,000 円
園の運営費	同じ				
園の特徴	スタッフが豊富。 園庭が広い。	新築・最新設備 配置基準最小限。 園庭が小さい。	正課指導あり。 新しい園舎。 習い事も可能。	正課指導あり。 駐車場が広い。 園庭遊具が充実。 食育が盛ん。	園舎は最新設備。 正課指導あり。 駐車場が広い。 園庭遊具が充実。 食育が盛ん。 習い事も豊富。
運営コスト(大)	園舎が古い。				
運営コスト(少)			園庭は狭い。 駐車場なし。	園舎は古い。	
通いやすさ	○	×	○	×	×

さて、上記のような園があったとして、園選びをしてみましょう。

Aさん：「園舎が古い方が風情もあるし、子どもの頃は、のびのび走り回れる園庭があれば良いのよ!」

Bさん：「私は、習い事をさせたいから杉か海かな?でも、広い園庭は不審だし、自転車送迎だから・・・」

Cさん：「ウチはね、実は夜に通ってる塾にお金をかけたいから、出来るだけ費用が安いところを優先したいわ。」

Dさん：「職場まで車だしなあ。園庭も広いほうが好き。生活費を削っても、午後の習い事で色々やらせたくて。」

Eさん：「正課指導なんて嫌。自由保育を望むわ! 認定こども園なんて必要ないわ!」

Aさんにとって、一番ベストな園は、間違いなく「花保育園」でしょうね。Bさんには「杉こども園」、Cさんには「花か菊」、Dさんには「海こども園」、Eさんには「花か菊」が最良の園とないまね。

実は、この5人の皆さん、それぞれが抱く自由なニーズや考え方で、これらを尊重できる様々な園があることによって、自由なニーズを満たしてくれることが可能となります。

お金をかけたほうが良い教育や保育が受けられるとも限りません。しかし、現行制度下では、上記のような様々な特色の園があったとしても、定員構成が同じである場合、運営費は認可基準上最低限の運営費を、一定の規則にて給付される体系になっています。

望み、享受するものが違えば、そこにかかるコストも一律であることは不可能でもあり、必要な部分には負担は生じてきます。どこまで望むか、切り捨てるかを、自由に選べる環境が、広く様々なニーズ対応と「応益」に対する公平負担となることが伺えるかと思います。もし、これら5園の運営費を全て公費で支出したとすると、一番コストのかかる「海こども園」の運営負担を、「必要ないわ」と考えるAさんの税金からも負担をすることになってしまうのです。そこで、望む内容に応じて個々が負担をする「応益負担」が必要となります。

また逆に、どんな施設でも同一の利用料とされた場合、特に環境に恵まれ人気のある園があったとすると、現行ですと、就労や介護の度合いや所得の低い順、母子家庭などが高くなる指数順に入所が決まり、教育理念や環境により園を選ぶ際に、不公平が生じることとなるでしょう。

つまり、良いと感じる方の隣には、そうでないと感じる方もいらっしゃる、相互の希望を侵害しないためにも、自分に合った園選びが相互の家庭のために重要ともなります。まずは、各園、どのような保育時間が確保されているのか。そこで、各園を比較し、また、保護者負担はどのくらいか?そして、環境は?内容は?特徴の違いは何か?それらを天秤にかけ、ご家庭のニーズを尊重したうえで、園選びをすることが求められます。

ご家庭ごとのニーズを満たせる適切な市内施設整備を願って

「負担は出来る限り抑えたいご家庭」は、実費徴収や特定保育料、また、備品購入など少ない園の中から園選びをし、それ以外の園は、下位の優先順位の中にも記さないことをお勧めします。(それがニーズにも反映されてきます)。

また、例えば、保育以外にも、独特の環境や内容、教育カリキュラムや習い事など、負担をしてもそういった環境を望む方であれば、認定こども園の選択肢も初めて出てくると思います。

つまり、「望まない園は優先順位に記さない」。これが、実は地域の「幼稚園・保育所・認定こども園」のニーズに対して的確に反映され、後々の就学前教育保育整備に対する重要な根拠へと繋がっていくのです。



東村山むさしのは、日々、ご家族の方の目に触れ、足をお運び頂く施設的な環境、子ども達が生活の中で感じ育む感性などに対しても、独自の考えがあるため、単なる建物などに対しても、認可基準をはるかに上回る設備投資をしています。体育やリトミックや英語など、幼児の正課指導に対しても、就学につながるカリキュラムへの考えがあり、また、0歳～2歳にあっても、一部は導入し、さらには、指導を受ける年齢の前からの導入、いわば、遊びや生活や対面を通してのスタッフへの順応なども考えています。

また、午後には、法人内で行われている様々な習い事も通うことが出来るのですが、実は、そのような環境のある園は少なく、と言うことは、そのような環境を望む方には園を選んでいただき、課外教室だけをとっても、必要ないと考える方には他の園を選んでいただくことこそが、ニーズと負担の双方に絡む、互いのニーズを満たす大切な選択となることに繋がります。

贅沢だという方もいれば、必要性や価値を感じて頂ける方もいらっしゃるかと思います。そういった部分に関して、的確な判断とご理解を頂ければ、どちらのご家庭の希望も叶えられなくなってしまうのです。そういった適切な需要を見いだせたのちに、もし、認定こども園への希望が多く、認定こども園待機児が増えれば、地域に認定こども園を増やす努力を、自治体や事業者がしなければなりません。また逆に、認定こども園のニーズが少なく、一般の保育所を希望される待機児が多いのであるなら、そう願う市民のために、認定こども園を増やすよりも、一般の保育所整備を進めることが必要となります。

故に、施設選びは、きちんとした理解と選択をする必要があると考え、負担をまず優先するご家庭におかれましては、「東村山むさしのは」、希望入所施設には記すべきでないと思います。望むものを必要としているのは、そのご家庭だけではありませんので。

おわりに

ただ、ここで大切なことは、施設環境が大なり小なり、園庭が広い狭い、教育カリキュラムの有無などは、決して子どもの将来を決めるものではなく、どんな小規模の施設でも素晴らしい施設はあるでしょうし、人材が整っている園もたくさんあることと思います。またそれは、幼稚園や保育所や認定こども園間の違いにも言えることかと思えます。



大切なのは、「お金をかければ、良い育ち」では全くなく、その背景には、ご家庭での環境や空気感といった一番大切な要素が存在し、そのうえで、「ご家庭ごとの思想や考え方、また、生活スタイルに合った園選びをすること」が、何より大切なキーポイントだと言うことは言うまでもありません。

むさしのが合うご家庭、合わないご家庭はあることでしょう。大切な乳幼児期を過ごすお子様だけではないご家族の時間。慎重にお選び下さいますよう、お願い申し上げます。

東村山むさしの第一・第二認定こども園



第一・幼稚園型認定こども園
満3歳&3～5歳児・定員270名

第二・保育所型認定こども園
0～5歳児・定員117名